

近畿厚生局長 殿

公立大学法人 大阪市立大学

開設者名 理事長 西澤 良記 印

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	165人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	496人	139.8人	635.8人	看護補助者	57人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	10人	臨床検査技師	78人
薬剤師	45人	6.77人	51.7人	作業療法士	4人	臨床検査衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	8人	その他	人
助産師	32人	0人	32人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧	人
看護師	811人	65.2人	876.2人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	1人	9.6人	10.6人	栄養士	9人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	147人
管理栄養士	9人	0.95人	9.9人	診療放射線技師	50人	その他の職員	229人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	802.1人	0.0人	802.1人
1日当たり平均外来患者数	2,074.1人	0.0人	2,074.1人
1日当たり平均調剤数	1,301.9剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (延患者数)	取扱患者数 (実患者数)
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人	0人
経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	6人	5人
末梢血単核球移植による血管再生治療	6人	3人
培養細胞によるライソゾーム病の診断	4人	4人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	3人	3人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	8人	4人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	30人	30人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (延患者数)	取扱患者数 (実患者数)
化学療法に伴うカフェイン併用療法	72人	10人
経皮的肺がんラジオ波焼灼療法	0人	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性膠原病患者に対する細胞標的治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(グリベック錠)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(セルセプト・カプセル)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	サンドスタチン(オクトレオチド)の筋肉注射・皮下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 特発性偽性腸閉塞に伴う腹部症状について、サンドスタチン50 $\mu$ gを6時間おきに皮下注射、またはサンドスタチンLAR20mgもしくは30mgを1ヶ月に1回筋肉注射をすることにより、腹部症状が改善し経口摂取が可能になったという報告がある。			
医療技術名	ヘリコバクター・ピロリ一次及び二次除菌療法不成功例に対する三次除菌療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ヘリコバクターピロリ感染を伴う胃・十二指腸潰瘍と診断され、一次及び二次除菌療法を受けたにもかかわらず除菌不成功と判断された症例にバリエット10mg・サワリン750mg・クラビット300mgを1日2回10日間服用する。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術時の鎮静におけるプロポフォール	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 全身麻酔の導入・維持及び集中治療における人工呼吸中の鎮静を目的として 食道表在癌・早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術時に用いる。			
医療技術名	多剤耐性B型肝炎ウイルスに対するテノフォビル投与の試み	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 現在保険適応である薬剤に耐性を示すB型肝炎ウイルス感染例を対象とし、ビリアード1錠を1日1回1年間継続服用をする。			
医療技術名	局所治療不能な肝細胞癌に対するインターフェロン投与の試み	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 外科切除や経皮的焼灼療法の適応外である肝細胞癌患者に対し、1日1回内服投与し1年間継続する。			
医療技術名	同種血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性の検索	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II以上の急性GVHDを発症した患者。 組織学的あるいは臨床症状よりgrade II以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40キロ以上60キロ未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。 一日投与量を12時間ごとに内服する。			
医療技術名	治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病(治療抵抗性ITP)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 抗血小板抗体が存在する治療抵抗性の血小板減少症患者に対し、入院にて点滴投与する。			
医療技術名	肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対するトロンボモジュリンの有効性と安全性の検討	取扱患者数	0人

当該医療技術の概要 治療抵抗性の肝中心静脈閉塞症 (VOD) / 静脈閉塞性肝疾患 (SOS) に対してリコモジュリンを点滴投与			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の拒絶予防のためのベントスタチン併用ドナーリンパ球輸注 (DLI)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後、T細胞ドナーキメラシムの低下を認め、重症再生不良性貧血再発を来し、移植片拒絶の危険性の高い症例に対して、免疫抑制剤の変更やドナーリンパ球輸注 (DLI) 単独療法では十分な効果が認められない症例に対し、免疫抑制効果の強いベントスタチン (コホロン) 併用のドナーリンパ球輸注 (DLI) を施行し、その効果と安全性を評価する。			
医療技術名	治療抵抗性GVHDに対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 治療適応となる中等症以上で、ステロイドによる初期治療抵抗性の慢性GVHDに対してリツキシマブを点滴投与する。			
医療技術名	本邦におけるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植におけるBortezomibを用いたGVHD予防法の安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+メソトレキセートの標準的GVHD予防療法に加えて、Bortezomibを移植後計3回点滴投与する。			
医療技術名	造血幹細胞移植後の移植後リンパ増殖性疾患 (PTLD) に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植後に末梢血EBウイルスDNA定量検査にてEBウイルスの増加を認めるか、もしくは組織にてPTLDの診断を満たす症例に対して、リツキシマブを点滴投与する。			
医療技術名	顆粒球輸注ドナーに対する顆粒球採取	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 より多くの顆粒球 (好中球) を採取するため、採取前にドナーに顆粒球コロニー刺激因子G-CSF (ノイトロジン注) を皮下注射し、ステロイド (デキサメタゾン) を内服してもらう。また、顆粒球をより効率よく採取するためサリンヘスを点滴し、採取する。採取時には血液が固まらないようにクエン酸を使用するが、その際の副作用を防ぐためにカルチコール注を点滴する。 (現在わが国においては、同種末梢血幹細胞移植の健康保険適用は健康な「血縁ドナー」にG-CSFを投与して末梢血幹細胞を採取する場合に限られている。一方、顆粒球採取を目的として健康人にG-CSFを投与することは、現時点では健康保険適用とされていない。)			
医療技術名	CIDPに対する免疫抑制剤 (ネオーラル) を用いた治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 CIDP (Chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy) 通常の治療に反応の乏しい患者に対してネオーラル50mg・10mgを1年間、病棟及び外来で内服もしくは点滴する。			
医療技術名	MIBG心筋シンチを用いた認知症患者の鑑別診断	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 認知症患者に対し、核医学検査室にて患者にヨウ素MIBG - I 123注射液を静注後、ガンマカメラにて撮影			
医療技術名	ブドウ糖PETによる認知症診断	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 認知症患者に対し、FDGスキャンを静脈注射後、PETカメラにて撮影を行う。			
医療技術名	難治性ネフローゼに対するリツキシマブ投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群の患者に本薬剤を1回点滴静注する。最初の1時間は25mg/hの速度で点滴静注を開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後注入速度を100mg/hにあげて1時間点滴静注し、更にその後は200mg/hまで速度をあげる。			
医療技術名	持続血糖モニターiPro2を用いた血糖変動マネジメント	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 糖尿病患者に対し、センサーを皮下に留置することにより皮下のグルコース濃度を継続的に測定する。			

医療技術名	大動脈炎症候群に対するトシリズマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 トシリズマブを4週間間隔で点滴静注する。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI室で病巣周囲を4分割した部位にTc製剤1mCiを皮下注射する。RI室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。 手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット2.5%1mlを併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する腫瘍抗原ペプチドを用いた経皮免疫療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫(STAGE I～IV)患者に対して、 ワクチン貼付部位の皮膚角質を剥離する。同部位にワクチンを貼付する。この手技を月1回で10回繰り返す。			
医療技術名	皮膚血管肉腫に対するSorafenib治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮膚血管肉腫の患者に対して、 ネクサバル錠を1回400mg 1日2回を連日内服投与する。28日を1コースとする。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			
医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。 局所麻酔後、CTガイド下で下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技は終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度である。			
医療技術名	経皮的骨形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。 局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。 治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおよそ1週間である。			
医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			
医療技術名	軟部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人

<p>当該医療技術の概要</p> <p>侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。</p> <p>局所麻酔後、CTが卜下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。</p>			
医療技術名	肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術の補助療法としての肝ラッピング術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝周囲組織より栄養動脈が発達した肝細胞癌症例に対して、</p> <p>全身麻酔を施行し、開腹下あるいは腹腔鏡視下に肝腫瘍と周囲臓器を剥離し、栄養動脈を遮断、さらに同部にゴアテックスシートを留置することにより周囲臓器からの腫瘍への血管新生を遮断する。</p>			
医療技術名	経皮経肝門脈枝塞栓術	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌患者に対し、</p> <p>血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、フィブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。</p>			
医療技術名	ステントグラフト内挿術(オープン型ステントグラフト内挿術、経皮的ステントグラフト内挿術)	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胸部大動脈瘤・解離性大動脈瘤患者に対して行う。</p> <p>オープン型ステントグラフト内挿術は、脳分離体外循環下に弓部大動脈よりステントグラフトを遠位弓部～下行大動脈に内挿する。経皮的ステントグラフト内挿術は、経大腿動脈から逆行性に胸大動脈瘤内にステントグラフトを内挿する方法である。</p>			
医療技術名	気管支充填術(Endobronchial Watanabe Spigotによる)	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性気胸・肺痿・有癭性膿胸患者に対して、</p> <p>気管支鏡を用いてシリコン充填材EWSを気管支に詰めて気管支を閉塞し、その末梢からの気漏を止めて種々の病態を改善する内視鏡的治療法。</p>			
医療技術名	頭蓋内頸動脈および椎骨動脈病変に対するステントを用いた血管形成術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頭蓋内頸動脈及び椎骨動脈狭窄病変で外科的治療が困難であると思われる症例についてバルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術にステント留置を併用する。</p>			
医療技術名	細胞培養依託システムを使用した関節鏡下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>膝軟骨欠損に対して、自己骨髄間葉系幹細胞移植が可能な症例</p> <p>腸骨より骨髄液を採取し、骨髄間葉系細胞を培養する。必要細胞数まで増やしたら、細胞浮遊液としてヒアルロン酸を加えて、関節鏡を使用し関節内に移植する。</p>			
医療技術名	末梢神経絞扼性障害の除圧範囲決定における術中神経栄養血管造影及び電気生理学的検査の応用	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>末梢神経障害の患者</p> <p>症状に関係のある部分のみを手術するため、手術中に電気生理学的検査を実施する。</p>			
医療技術名	超音波検査による南部腫瘍の悪性度評価の有用性	取扱患者数	58人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>軟部腫瘍患者で超音波検査上腫瘍内への血流が確認できる患者に対し、</p> <p>ペルフルブタンマイクロバブルとして16 <math>\mu</math> L(1バイアル)を添付の注射用水2mlで懸濁し、通常成人1回懸濁液として0.015ml/kgを静脈内投与する。</p>			

医療技術名	経皮的内視鏡下椎間板摘出術(PED/PELD)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニア患者に対し局所麻酔もしくは静脈麻酔下に腹臥位となり、皮膚に8mmの穴を開け、そこから内視鏡と専用の手術器具を挿入してヘルニアを切除する。			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 1) 2) 3) の場合、移植2週間前と移植当日にリツキシマブ150mg/m <sup>2</sup> を点滴静注 4) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して150mg/m <sup>2</sup> を単回投与する。			
医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1~0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	腎移植後のサイトメガロウイルス感染予防としてのバルガンシクロビル投与	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腎移植後のサイトメガロウイルス感染予防として、特にサイトメガロウイルス抗体陰性および高齢者など感染ハイリスク群に対し、半年間450mg/日で予防投与を行う。			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4-6回必要となることがある。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に膀胱・前立腺・尿道および所属リンパ節を摘出し、臓器摘出後は腹腔鏡で使用したポート切開部位を最小限延長して、ミニマム創手術にて回腸を利用した代用膀胱を造設するものである。			
医療技術名	内因性尿道括約筋不全治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 男性の内因性尿道括約筋不全を原因とする腹圧性尿失禁の患者に対し、人工括約筋を体内に植え込むことによって尿失禁の治療を行う。			
医療技術名	ビタミンD直接注入療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 2次性副甲状腺機能亢進症患者に対し、副甲状腺に活性型ビタミンDを局所注入することにより、副甲状腺内の活性型ビタミンD濃度を極めて高くすることによって、副甲状腺機能亢進症に見られる高カルシウム血症の発現を抑制する治療法。			
医療技術名	アバスチン硝子体内注射	取扱患者数	207人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について 手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。 アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA)網膜下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤 手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。			

医療技術名	胎児輸血	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 経腹超音波ガイド下に臍帯静脈を穿刺し胎児血で貧血を確認した後、輸血を実施する。胎児の血液型は不明であるためO型Rh(-)の濃厚赤血球を状況にあわせて使用する。			
医療技術名	浅在性皮膚悪性腫瘍に対するALAを用いた光線力学療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 日光角化症、ボーエン病、乳房外Paget病、浅在性基底細胞癌患者に対し、ALA含有軟膏を患部に密閉療法4時間後、患部にレーザー照射する。1ヶ月の間隔で治療を繰り返し、3回で1クールとする。			
医療技術名	重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤・抗生物質持続動注療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 発症後1週間以内で、造影CTで膵壊死を認める患者や特に重症な患者(厚生労働省基準の重症度スコア9点以上等)に投与する。 投与方法:膵壊死部を灌流する動脈から持続動注 投与量 :フサン(50mg/バイアル)を1日4バイアル、11時間ずつ2回持続投与 およびチェナム(500mg/バイアル)を1日2~4バイアル、1時間ずつ2回持続投与 投与期間:約5日間			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	92人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	37人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	42人	・原発性胆汁性肝硬変	77人
・全身性エリテマトーデス	241人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	129人	・特発性大腿骨頭壊死症	49人
・再生不良性貧血	55人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	299人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	105人	・特発性間質性肺炎	6人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	131人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	88人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	35人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	612人	・神経線維腫症	37人
・大動脈炎症候群	23人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	29人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	34人	・ライソゾーム病	22人
・クローン病	330人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋委縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	107人	・球脊髄性筋委縮症	1人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・アミロイドーシス	2人	・肥大型心筋症	0人
・後縦靭帯骨化症	81人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・ミトコンドリア病	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	19人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	44人	・黄色靭帯骨化症	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	84人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人		

26人

2,586人

22人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

48人

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
マイクロ波子宮内膜アブレーション	超音波骨折治療法
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼熱療法(転移性骨腫瘍・類骨腫)

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 27 例 / 部検率 8.28%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託先	
心臓リハビリテーション療法へのマイオカインおよび心血管機能による多面的アプローチ	葭山 稔	循環器内科	1,400,000	補	基盤研究(C)
冠動脈MRI・MRAによる不安定プラークの診断、及び薬剤の冠動脈血管径への影響	江原 省一	循環器内科	1,700,000	補	基盤研究(C)
喫煙による血管障害におけるニコチン依存度とトロンボスポンジンの関与と機序	竹本 恭彦	循環器内科	1,244,207	補	文部科学省科学研究費補助金
心肺関連を基盤とする慢性閉塞性肺疾患の包括的治療戦略の確立	金澤 博	呼吸器内科	1,200,000	補	基盤研究(C)
インスリン非使用2型糖尿病患者におけるカーボカウント食事指導法の有効性の検討	福本 真也	生活習慣病・糖尿病センター(2内)	1,600,000	補	基盤研究(C)
PET分子イメージングを用いた慢性疲労症候群における脳内免疫異常の解明	中富 康仁	生活習慣病・糖尿病センター(2内)	900,000	補	若手研究(B)
メタボリックシンドロームにおけるマクロファージサブセット制御機構の解明	元山 宏華	生活習慣病・糖尿病センター(2内)	1,500,000	補	若手研究(B)
肥満・動脈硬化における終末糖化産物受容体を介した炎症シグナルの意義	福本 真也	生活習慣病・糖尿病センター(2内)	200,000	補	基盤研究(C)
学校や職場における客観的なメンタルヘルス評価法の確立	中富 康仁	生活習慣病・糖尿病センター(2内)	10,000	補	基盤研究(C)
2次性副甲状腺機能亢進症における副甲状腺メカリンの病態生理学的役割の研究	今西 康雄	内分泌・骨・リウマチ内科(2内)	1,400,000	補	基盤研究(C)
ビタミンDシグナルによる副甲状腺腫瘍化抑制機構の検討	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科(2内)	1,400,000	補	基盤研究(C)
慢性疲労症候群の実態調査と客観的診断法の検証と普及	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科(2内)	300,000	補	障害者対策総合研究事業
虚血下肢の治療を目的としたInjectable cell scaffoldの前臨床試験	福本 真也	内分泌・骨・リウマチ内科(2内)	6,538,000	補	科学技術振興機構
糖尿病性腎症の新規バイオマーカー開発を目指した、単離糸球体のプロテオーム解析	石村 栄治	腎臓内科	1,400,000	補	基盤研究(C)
気道上皮細胞特異的転写因子制御による気管支喘息治療の研究	浅井 一久	呼吸器内科	1,800,000	補	若手研究(B)
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	工藤 新三	呼吸器内科	700,000	補	がん臨床研究事業
消化器疾患関連睡眠障害におけるサロゲートマーカーの探索	藤原 靖弘	消化器内科	2,300,000	補	基盤研究(C)
成長過程におけるストレス応答と腸管グリア細胞による内臓知覚過敏とその包括的解析	富永 和作	消化器内科	1,600,000	補	基盤研究(C)

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

腸管グリア細胞の動態・ストレス応答からみた機能性ディスペプシアの病態解析	田中 史生	消化器内科	900,000	補	若手研究(B)
分光特性を用いた消化管壁および癌の血管構造の3次元再構築技術の開発	町田 浩久	消化器内科	1,000,000	補	基盤研究(C)
ヘリコバクター・ピロリと気管支喘息の関連における免疫学的機序の関与	荒川 哲男	消化器内科	1,100,000	補	基盤研究(C)
アンチエイジング分子Klothoに着目した慢性胃炎および胃がんの病態解明	谷川 徹也	消化器内科	800,000	補	基盤研究(C)
都市部の炎症性腸疾患患者におけるインフルエンザワクチンの有効性の検討	鎌田 紀子	消化器内科	500,000	補	大阪市立大学戦略的研究推進事業
NBI内視鏡による食道癌サーベイランスシステム	永見 康明	消化器内科	870,000	補	大阪市立大学戦略的研究推進事業
胃癌の発癌・進展におけるプロスタグランジントランスポーターの発現動態とその意義	谷川 徹也	消化器内科	3,000,000	補	日本消化器病学会
PPI難治性胃食道逆流症に対する六君子湯の前向き無作為比較試験(G-PRIDE研究)	富永 和作	消化器内科	758,100	委	総合診療メデフィ
特殊光内視鏡と分子イメージング内視鏡による潰瘍性大腸炎合併癌サーベイランスの検討	渡辺 憲治	消化器内科	1,600,000	補	基盤研究(C)
肝線維化の制御による肝発癌抑制法の開発	村上 善基	肝胆膵内科	500,000	補	基盤研究(C)
癌微小環境形成におけるサイトロビン陽性あるいは陰性筋線維芽細胞の役割	河田 則文	肝胆膵内科	3,200,000	補	新学術領域研究
肝細胞内微量B型肝炎ウイルスの病的意義に関する研究	田守 昭博	肝胆膵内科	1,200,000	補	基盤研究(C)
脂肪肝炎を基盤とした肝発癌におけるマクロファージスカベンジャー受容体の役割	藤井 英樹	肝胆膵内科	1,300,000	補	若手研究(B)
脂肪性肝炎における肝再生能、組織修復の解明	河田 則文	肝胆膵内科	300,000	補	基盤研究(C)
iPS細胞由来の人工型エクソソームによるmiRNAを用いたHCVの治療法の開発	村上 善基	肝胆膵内科	100,000	補	基盤研究(C)
網羅的マイクロRNA発現解析を用いたクルクミンの新たな抗腫瘍機序の解明	村上 善基	肝胆膵内科	500,000	補	基盤研究(C)
肝炎ウイルスによる肝疾患発症の宿主要因と発症予防に関する研究	村上 善基	肝胆膵内科	3,000,000	補	肝炎等克服緊急対策研究事業
肝炎に関する全国規模のデータベースを用いた肝炎治療の評価及び肝炎医療の水準の向上に資する研究	河田 則文	肝胆膵内科	2,500,000	補	肝炎等克服緊急対策研究事業
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	河田 則文	肝胆膵内科	1,700,000	補	厚生労働科学特別研究事業
血中マイクロRNAを用いた肝線維化バイオマーカーの開発に関する研究	榎本 大	肝胆膵内科	2,620,000	補	日本学術振興会

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

末梢血マイクロRNAを用いた肝疾患診断方法の開発	田守 昭博	肝胆膵内科	3,880,000	補	日本学術振興会
癌微小環境形成におけるサイトグロビン陽性あるいは陰性筋線維芽細胞の役割	河田 則文	肝胆膵内科	4,420,000	補	日本学術振興会
乳幼児の呼吸器・消化管感染症に対する次世代型舌下粘膜ワクチンの開発	徳原 大介	小児科・新生児科	1,200,000	補	研究活動スタート支援
iPS細胞を用いた小児神経伝達物質病モデルの創出	濱崎 考史	小児科・新生児科	2,200,000	補	基盤研究(C)
マイクロペプトを用いたメンケス病のキレート剤による治療効果に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,900,000	補	基盤研究(C)
ライゾーム病神経変性におけるオートファジー機能の解明と誘導・阻害による治療研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	1,400,000	補	基盤研究(C)
先天代謝異常症に対する移植療法の確立とガイドラインの作成に関する研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	4,000,000	補	難治性疾患克服研究事業
ライゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	2,400,000	補	難治性疾患克服研究事業
「新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究」	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,500,000	補	難治性疾患等克服研究事業
ライゾーム病神経変性におけるオートファジー機能の解明と誘導・阻害による治療研究	田中あけみ	小児科・新生児科	1,400,000	補	日本学術振興会
iPS細胞を用いたミトコンドリア病の病態解明と診断および治療法の開発	濱崎考史	小児科・新生児科	3,000,000	委	武田科学振興財団
クローン病に対する粘膜免疫分子ライプイメーシングシステムの構築	徳原大介	小児科・新生児科	2,000,000	委	難病医学研究財団
粘膜免疫学を基盤とした、炎症性腸疾患に対するビタミンDの制御機構の解明	徳原大介	小児科・新生児科	1,500,000	委	日本酪農乳業協会牛乳乳製品健康科学学術研究
舌下粘膜免疫機構の解明を基盤とした乳幼児の呼吸器・消化管感染症に対するワクチンデリバリーシステムと新規アジュバントの開発	徳原大介	小児科・新生児科	100,000	委	大阪小児感染症研究会研究助成金
双極性障害とパーソナリティによる気分調節障害の比較研究	永田 利彦	神経精神科	1,200,000	補	基盤研究(C)
インターネット依存障害の病態および治療に関する研究	片上 素久	神経精神科	1,200,000	補	若手研究(B)
高機能広汎性発達障害児の感覚異常	宮脇 大	神経精神科	700,000	補	若手研究(B)
角層をターゲットとした皮膚アンチエイジング剤としての漢方薬の作用解明	田宮 久詩	皮膚科	500,000	補	若手研究(B)
角層カタラーゼ活性系に対する補材の作用メカニズムの解明	小林 裕美	皮膚科	1,100,000	補	基盤研究(C)
水疱性類天疱瘡発症初期メカニズムの解明	鶴田 大輔	皮膚科	1,000,000	補	基盤研究(C)

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

表皮角化細胞での細胞-細胞接着と細胞-細胞外マトリクス接着との動的相互作用の解明	立石 千晴	皮膚科	1,200,000	補	若手研究(B)
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	深井 和吉	皮膚科	2,000,000	補	難治性疾患克服研究事業
難治性疾患克服研究事業[白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療指針の確立]	深井 和吉	皮膚科	2,000,000	補	厚生労働科学研究補助費
高磁場MR装置による磁化率強調画像を応用した新しい髄鞘イメージングの開発・応用	三木 幸雄	放射線科	2,400,000	補	基盤研究(B)
脳磁図(MEG)を用いた非侵襲的脳虚血域画像化技術の開発と臨床応用	坂本 真一	放射線科	900,000	補	基盤研究(C)
ラジオ凝固療法+免疫賦活化因子局所注入併用により局所制御と遠隔制御も可能か?	大隈 智尚	放射線科	1,200,000	補	若手研究(B)
進行肝細胞癌に対する、標準的肝動注化学療法確立に関する多施設共同研究	西田 典史	放射線科	20,000	補	基盤研究(C)
門脈血行異常症に関する調査研究	塩見 進	核医学科	400,000	補	難治性疾患克服研究事業
アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する多施設大規模臨床研究	塩見 進	核医学科	1,000,000	補	認知症対策総合研究事業
スキルス胃癌の病態と治療抵抗性の克服—癌幹細胞を標的として—	平川 弘聖	消化器外科・乳腺内 分泌外科	2,800,000	補	基盤研究(B)
甲状腺未分化癌細胞株の樹立と分子標的薬剤併用による抗癌剤耐性克服の基礎検討	小野田 尚佳	消化器外科・乳腺内 分泌外科	1,300,000	補	基盤研究(C)
ジフテリアトキシン融合蛋白とPSKの消化器癌に対するペプチドワクチン療法への応用	田中 浩明	消化器外科・乳腺内 分泌外科	1,100,000	補	基盤研究(C)
スキルス胃癌の病態と治療抵抗性の克服—癌幹細胞を標的として—	平川 弘聖	消化器外科・乳腺内 分泌外科	610,000	補	基盤研究(B)
低酸素微小環境における胃癌細胞の悪性形質獲得の機序解明と治療標的分子の探索	八代 正和	消化器外科・乳腺内 分泌外科	3,500,000	補	基盤研究(B)
低酸素微小環境における胃癌細胞の悪性形質獲得の機序解明と治療標的分子の探索	八代 正和	消化器外科・乳腺内 分泌外科	680,000	補	基盤研究(B)
進行・再発肺癌に対する新規エビトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第I/II相臨床試験	田中 浩明	消化器外科・ 乳腺内分泌科	2,500,000	補	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業
大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験(臨床第3相試験)	平川 弘聖	消化器外科・ 乳腺内分泌科	200,000 (1件)	補	h0
甲状腺未分化癌に対する化学療法の有効性に関するエビデンスの蓄積と効果予測因子に関する研究	小野田尚佳	消化器外科・ 乳腺内分泌科	1,840,000	補	大阪市立大学平成24年度 戦略的研究 重点研究(B)
スキルス胃癌細胞株の樹立。浸潤・播種を制御する分子/薬剤の探索	八代正和	消化器外科・ 乳腺内分泌科	1,500,000	委	国立がん研究センターがん研究開発費
HER2陽性乳がんに対する術前抗HER2抗体療法における効果予測マーカーの探索的研究	高島 勉	消化器外科・ 乳腺内分泌科	550,000	委	国立がん研究センターがん研究開発費

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

癌周囲微小免疫環境に及ぼす抗炎症薬の効果と消化器癌に対するワクチン療法への応用	田中 浩明	消化器外科・ 乳腺内分泌科	800,000	補	公益財団法人 大阪コ ミュニティ財団
肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究	久保 正二	肝胆膵外科	100,000	補	基盤研究(C)
肝細胞癌のマイクロRNA解析による発癌メカニズムの解明と臨床応用	久保 正二	肝胆膵外科	1,000,000	補	基盤研究(C)
手術を受け通院中の消化器系がん患者のリハビリテーション看護モデルの開発	大杉 治司	肝胆膵外科	200,000	補	基盤研究(C)
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	久保 正二	肝胆膵外科	1,700,000	補	厚生労働科学特別研究 事業
原発性肺腺癌の早期診断・治療標的の開発をめざした戦略的プロテオーム解析	西山 典利	呼吸器外科	1,040,000	補	基盤研究(C)
低磁場MRIと脳磁図融合装置の開発と臨床応用を目指した基礎研究	露口 尚弘	脳神経外科	1,700,000	補	基盤研究(C)
脳神経外科手術用止血剤の開発に向けた組織接着性ハイドロゲルの安全性評価研究	大畑 建治	脳神経外科	1,100,000	補	基盤研究(C)
低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究	露口 尚弘	脳神経外科	1,500,000	補	独立行政法人日本学術 振興会
骨形成蛋白(BMP)と局所注入療法を併用した新しい低侵襲脊椎固定術の開発	松本 富哉	整形外科	1,200,000	補	研究活動スタート支援
パラバイオスラットを利用した半月板損傷修復過程解明と組織修復への応用	箕田 行秀	整形外科	1,600,000	補	基盤研究(C)
末梢絞扼性障害における術中神経栄養血管造影を用いた神経内除症範囲の研究	岡田 充弘	整形外科	200,000	補	基盤研究(C)
発生学的アプローチによる関節内構成体(靭帯、半月板)再建方法の開発	橋本 祐介	整形外科	1,700,000	補	若手研究(B)
骨髄間葉系幹細胞からの生体外作成軟骨シートによる鏡視下関節軟骨欠損	橋本 祐介	整形外科	200,000	補	基盤研究(B)
ホームレス者の健康支援を通じた社会的包摂の推進に関する研究	中田 信昭	整形外科	30,000	補	基盤研究(C)
転倒時の骨折を防ぐ高齢者施設の床の安全性確保に関する実証的研究	池淵 充彦	整形外科	200,000	補	挑戦的萌芽研究
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	中村 博亮	整形外科	1,500,000	補	難治性疾患克服研究事 業
前立腺がん発癌プロモーションにおける酸化ストレス関連遺伝子の役割と多型の解析	井口 太郎	泌尿器科	1,200,000	補	若手研究(B)
膀胱癌に対するSteroid Sulfataseの作用機序の解明	玉田 聡	泌尿器科	2,000,000	補	基盤研究(C)
移植後新規発症糖尿病の予測因子としてのmicroalbuminuria	内田潤次	泌尿器科	500,000	補	平成24年度公益財団法 大阪腎臓バンク 腎疾患 研究助成金

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

視覚能力レベルに応じた「迷い点」による空間の分かりやすさ評価－居住福祉施設の場合	戒田 真由美	眼科	100,000	補	基盤研究(C)
糖尿病性神経障害における下行性疼痛抑制系の脳内モノアミン動態の解明	舟尾 友晴	麻酔科	900,000	補	若手研究(B)
抗うつ薬、抗痙攣薬による神経障害性疼痛の予防－インビボパッチクランプ法による検討	森 隆	麻酔科	1,100,000	補	基盤研究(C)
手術患者の酸化ストレス病態の解明と抗酸化治療による手術侵襲治療戦略の確立	土屋 正彦	麻酔科	900,000	補	基盤研究(C)
ラットにおける脳内セロトニン濃度と異常行動の検討－セロトニン症候群予防への試み	高橋 陵太	麻酔科	1,300,000	補	若手研究(B)
局所麻酔薬の心毒性に対するリポッドレスキューの機序解明	松浦 正	麻酔科	1,700,000	補	若手研究(B)
表皮角化細胞におけるβ4インテグリンのエンドサイトーシスの解明	小澤 俊幸	形成外科	1,900,000	補	若手研究(B)
レーザースペックル画像血流計を用いた熱傷深度の検討	羽多野 隆治	形成外科	2,200,000	補	若手研究(B)
難治性白血病に対する同種造血幹細胞移植後の再発と感染症発症抑制に関する研究	康 秀男	血液内科・造血細胞移植科	600,000	補	若手研究(B)
造血幹細胞移植治療の合併症克服と有効率向上に関する研究	日野 雅之	血液内科・造血細胞移植科	1,100,000	補	基盤研究(C)
白血病発症に伴って出現する抗原不応答性CD4陽性T細胞の解析	中嶋 康博	血液内科・造血細胞移植科	1,000,000	補	若手研究(B)
造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病、非感染性肺合併症の予測、予防に関する研究	中前 博久	血液内科・造血細胞移植科	600,000	補	基盤研究(C)
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究	中前 博久	血液内科・造血細胞移植科	1,000,000	補	がん臨床研究事業
非血縁者間同種末梢造血幹細胞移植開始におけるドナーおよびレシピエントの安全性と移植成績向上に関する研究	日野 雅之	血液内科・造血細胞移植科	400,000	補	免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
成人T細胞性白血病(ATL)の根治を目指した細胞療法の確立及びそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究	中前 博久	血液内科・造血細胞移植科	500,000	補	がん臨床研究事業
高齢認知症患者における高齢者タウオパチーの臨床的分離同定に関する研究	嶋田 裕之	老年内科・神経内科	800,000	補	基盤研究(C)
アルツハイマー病のリスクファクターとして、酸化型アルブミンの検証研究	山本 圭一	老年内科・神経内科	1,200,000	補	挑戦的萌芽研究
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証－プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験－	嶋田 裕之	老年内科・神経内科	1,000,000	補	認知症対策総合研究事業
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学科	400,000	補	厚生労働省特定疾患対策研究
アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する研究	塩見 進	核医学科	1,000,000	補	厚生労働省特定疾患対策研究

## (様式11) 1 研究費補助等の実績

浸潤性膵肝臓の早期診断のためのプロテオーム解析を用いたバイオマーカー検索	桑江 優子	病理部	1,300,000	補	基盤研究(C)
学校における心停止の疫学調査	西内 辰也	救命救急センター	1,800,000	補	基盤研究(C)
災害時におけるコミュニケーションツールの開発	山村 仁	救命救急センター	520,000	補	挑戦的萌芽研究
救急電話相談事業による救急業務の効率化に関する研究	溝端 康光	救命救急センター	8,750,000	委	総務省消防庁
関節炎症に及ぼす脂質サイトカインの影響	小池 達也	リハビリ テーション部	1,100,000	補	基盤研究(C)
医療の改善活動としての芸術導入-医療の質向上に関する評価-	山口 悦子	医療安全管理部	700,000	補	挑戦的萌芽研究
医療保育士・病弱特別支援教育担当教師の専門性向上のための研修システム構築	山口 悦子	医療安全管理部	100,000	補	基盤研究(C)

小計 7

合計 125

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## (様式11) 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Vessels. 2013 Mar;28(2):188-98.(2013年3月)	Typical coronary appearance of dilated cardiomyopathy versus left ventricular concentric hypertrophy: coronary volumes measured by multislice computed tomography.	葭山 稔	循環器内科
Clin Cardiol. 2013 Mar;36(3):172-7.(2013年3月)	Impact of lesion length on functional significance in intermediate coronary lesions.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2013 Mar 15. (2013年3月)	Changes in serum cholesterol levels determine future risk of cardiovascular events in patients with acute coronary syndrome in the Japanese Coronary Artery Disease (JCAD) Study.	葭山 稔	循環器内科
Scand J Gastroenterol. 2013 Jan 8.(2013年1月)	Incidence and risk factors of gastrointestinal bleeding in patients on low-dose aspirin therapy after percutaneous coronary intervention in Japan.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2012;76(12):2748-54. (2012年12月)	Peri-atrial epicardial adipose tissue is associated with new-onset nonvalvular atrial fibrillation.	葭山 稔	循環器内科
Circ Heart Fail. 2012 Nov;5(6):794-802.(2012年11月)	Tolvaptan improves left ventricular dysfunction after myocardial infarction in rats.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2012 Oct;60(4):283-7. (2012年10月)	Preliminary observations of passive exercise using whole body periodic acceleration on coronary microcirculation and glucose tolerance in patients with type 2 diabetes.	葭山 稔	循環器内科
Heart Vessels. 2012 Sep 28. (2012年9月)	Effects of intravenous atrial natriuretic peptide and nitroglycerin on coronary vasodilation and flow velocity determined using 3 T magnetic resonance imaging in patients with nonischemic heart failure.	葭山 稔	循環器内科
Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2012 Sep 1;303(5):H569-77. (2012年9月)	Therapeutic administration of IL-11 exhibits the postconditioning effects against ischemia-reperfusion injury via STAT3 in the heart.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2012;76(8):1958-64. (2012年8月)	Impaired coronary flow reserve as a marker of microvascular dysfunction to predict long-term cardiovascular outcomes, acute coronary syndrome and the development of heart failure.	葭山 稔	循環器内科
Am J Cardiol.2012 Jul 1;110(1):93-7. (2012年7月)	Prognostic value of aortic valve area index in asymptomatic patients with severe aortic stenosis.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2012 Jun;58(1):45-9.(2012年6月)	Aorto-renal bypass surgery normalized blood pressure without antihypertensive medications in a young female patient with renal artery occlusion.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2012 Jun;58(1):1-11.(2012年6月)	Detailed observation of arterial healing after stent implantation in swine arteries by using optical coherence tomography.	葭山 稔	循環器内科
Eur Heart J. 2012 Jun;33(12):1480-90.(2012年6月)	Erythrocyte-rich thrombus aspirated from patients with ST-elevation myocardial infarction: association with oxidative stress and its impact on myocardial reperfusion.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2012 May;59(3):337-43. (2012年5月)	Comparison of two-dimensional and real-time three-dimensional transesophageal echocardiography in the assessment of aortic valve area.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2012;76(5):1203-12. (2012年5月)	Novel device that produces carbon dioxide mist for myocardial infarction treatment in rats.	葭山 稔	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol. 2012 May 31;157(2):216-20. (2012年5月)	Circadian variation in coronary flow velocity reserve and its relation to $\alpha$ 1-sympathetic activity in humans.	葭山 稔	循環器内科
Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2012 May;13(5):394-9. (2012年5月)	Hyperintense plaque identified by magnetic resonance imaging relates to intracoronary thrombus as detected by optical coherence tomography in patients with angina pectoris.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2012;76(11):2544-2545. (2012年11月)	Absence of Coronary Calcification With Normal Endothelial Function - A Unique Entity for Preemptive Medical Care -	葭山 稔	循環器内科
Int Heart J. 2012;53(3):170-175 (2012年5月)	A multicenter study design to assess the clinical usefulness of semi-automatic measurement of flow-mediated vasodilatation of the brachial artery	葭山 稔	循環器内科
Journal of Asthma 49(3)253-259 (2012年4月)	Association between episodes of upper respiratory infection and exacerbations in adult patients with asthma.	平田一人	呼吸器内科
European Journal of Clinical Investigation 42(4)419-426 (2012年4月)	Validity of HMGB1 measurement in epithelial lining fluid in patients with COPD.	金澤博	呼吸器内科
Osaka City Medical Journal 58(1)25-34 (2012年6月)	Comparison of adverse events of erlotinib with those of gefitinib in patients with non-small cell lung cancer: a case-control study in a Japanese population.	平田一人	呼吸器内科
Pulmonary Pharmacology & Therapeutics 25(6)478-482 (2012年12月)	Association of airway pentosidine levels with bronchodilator response mediated by salbutamol administration in asthmatic patients.	平田一人	呼吸器内科
Journal of Thoracic Oncology 8(1)96-101 (2013年1月)	Prospective assessment of continuation of erlotinib or gefitinib in patients with acquired resistance to erlotinib or gefitinib followed by the addition of pemetrexed.	平田一人	呼吸器内科
PLoS One 7:e35199, 2012(2012年4月)	Enhancement of cell-based therapeutic angiogenesis using a novel type of injectable scaffolds of hydroxyapatite-polymer nanocomposite microspheres.	福本 慎也	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetol Metab Syndr 4:53, 2012(2012年12月)	Undercarboxylated osteocalcin does not correlate with insulin resistance as assessed by euglycemic hyperinsulinemic clamp technique in patients with type 2 diabetes mellitus.	森 克仁	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetes Res Clin Pract 97:91-98, 2012(2012年7月)	Antialbuminuric advantage of cilnidipine compared with L-type calcium channel blockers in type 2 diabetic patients with normoalbuminuria and microalbuminuria.	福本 慎也	生活習慣病・糖尿病センター
Osaka City Med J 58:35-38, 2012 (2012年6月)	Thrice-weekly insulin injection with nurse's support for diabetic hemodialysis patients having difficulty with self injection.	庄司 哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Nephrol Dial Transplant 27:3915-3922, 2012(2012年10月)	Decreased serum adrenal androgen dehydroepiandrosterone sulfate and mortality in hemodialysis patients.	庄司 哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetes 62:478-489, 2013(2013年2月)	Receptor for advanced glycation end products regulates adipocyte hypertrophy and insulin sensitivity in mice: involvement of Toll-like receptor 2.	森岡 与明	生活習慣病・糖尿病センター
J Atheroscler Thromb 20:186-194, 2013(2013年2月)	Clinical impact of the leptin to soluble leptin receptor ratio on subclinical carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes.	絵本 正憲	生活習慣病・糖尿病センター
Cytokine 61:912-916, 2013(2013年3月)	Tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand as an independent predictor of mortality in hemodialysis patients.	森 克仁	生活習慣病・糖尿病センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biomed Pharmacother 66:266-270, 2012(2012年6月)	Poor muscle quality as a predictor of high mortality independent of diabetes in hemodialysis patients.	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科
J Bone Miner Metab 30:93-99, 2012(2012年1月)	Matrix extracellular phosphoglycoprotein is expressed in causative tumors of oncogenic osteomalacia.	今西 康雄	内分泌・骨・リウマチ内科
Nephron Clin Pract 120:c91-c100, 2012(2012年5月)	Disappearance of association in diabetic patients on hemodialysis between anemia and mortality risk: the Japan dialysis outcomes and practice pattern study.	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科
J Clin Endocrinol Metab 97:E2036-2043, 2012(2012年11月)	Impaired response of FGF-23 to oral phosphate in patients with type 2 diabetes: a possible mechanism of atherosclerosis.	今西 康雄	内分泌・骨・リウマチ内科
Clin Nephrol 78:273-280, 2012(2012年10月)	Impact of atherosclerosis on the relationship of glycemic control and mortality in diabetic patients on hemodialysis.	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科
J Bone Miner Metab 31:1-15, 2013(2013年1月)	Guidelines for the use of bone metabolic markers in the diagnosis and treatment of osteoporosis (2012 edition).	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科
Thyroid Res 6:5, 2013(2013年3月)	Thyroid heterogeneity, as indicated by the CV of ultrasonographic intensities, correlates with anti-thyroid peroxidase antibodies in euthyroid Hashimoto's thyroiditis.	山田 真介	内分泌・骨・リウマチ内科
Nephrol Dial Transplant 27:1889-1897, 2012(2012年5月)	Proteome analysis of laser microdissected glomeruli from formalin-fixed paraffin-embedded kidneys of autopsies of diabetic patients: nephronectin is associated with the development of diabetic glomerulosclerosis.	石村 栄治	腎臓内科
Kidney Blood Press Res 36:139-148, 2012(2013年2月)	Prevalence of and factors associated with chronic kidney disease (CKD) in Japanese subjects without notable chronic diseases, undergoing an annual health checkup.	石村 栄治	腎臓内科
Ther Apher Dial 16:127-133, 2012(2012年4月)	Elemental concentrations in scalp hair, nutritional status and health-related quality of life in hemodialysis patients.	石村 栄治	腎臓内科
J Clin Endocrinol Metab 98:1264-1270, 2013(2013年3月)	Significant positive association between parathyroid hormone and fat mass and lean mass in chronic hemodialysis patients.	石村 栄治	腎臓内科
Video Capsule Endoscopy-A Comprehensive Guide and Atlas. M. KEUCHEL, F. HAGENMÜLLER AND H.TAJIRI (EDS.), Springer.	Capsule Endoscopy in suspected Crohn's Disease	渡辺 憲治	消化器内科
Video Capsule Endoscopy-A Comprehensive Guide and Atlas. M. KEUCHEL, F. HAGENMÜLLER AND H.TAJIRI (EDS.), Springer.	Non-specific ulcers in the small intestine	渡辺 憲治	消化器内科
Gastrointest Endosc. 2012 Apr;75(4):731-8	Internal hypoechoic feature by EUS as a possible predictive marker for the enlargement potential of gastric GI stromal tumors.	富永 和作	消化器内科
Dig Dis Sci. 2012 Jun;57(6):1510-6.	Effect of Mosapride Citrate on Gastric Emptying in Interferon-Induced Gastroparesis.	富永 和作	消化器内科
Am J Pathol. 2012 Jul;181(1):98-110.	High-Mobility Group Box 1 Promotes Small Intestinal Damage Induced by Nonsteroidal Anti-inflammatory Drugs through Toll-like Receptor 4	渡辺 俊雄	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol. 2012 Apr;27 Suppl 3:58-62.	Pathogenesis of proton-pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease according to multichannel intraluminal impedance-pH monitoring.	藤原 靖弘	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroenterol. 2012 May 7;18(17):2092-8.	New reduced volume preparation regimen in colon capsule endoscopy.	渡辺 憲治	消化器内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2012 Aug 1;303(3):G324-34	Activation of the MyD88 signaling pathway inhibits ischemia-reperfusion injury in the small intestine.	渡辺 俊雄	消化器内科
Endoscopy. 2012 Jun;44(6):622-5.	Locoregional mitomycin C injection for esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection.	富永 和作	消化器内科
Digestion. 2012;86(2):94-106.	A questionnaire-based survey on screening for gastric and colorectal cancer by physicians in East asian countries in 2010.	藤原 靖弘	消化器内科
Digestion. 2012;86(2):136-46.	Questionnaire-Based Survey Conducted in 2011 concerning Endoscopic Management of Barrett's Esophagus in East Asian Countries.	藤原 靖弘	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun. 2012 Sep 28;426(3):342-9.	Toll-like receptor 9 signaling has anti-inflammatory effects on the early phase of Helicobacter pylori-induced gastritis.	谷川 徹也	消化器内科
Digestion. 2012 Sep 5;86(3):228-237.	High Prevalence of Gastroesophageal Reflux Symptoms in Patients with Non-Alcoholic Fatty Liver Disease Associated with Serum Levels of Triglyceride and Cholesterol but Not Simple Visceral Obesity.	富永 和作	消化器内科
Intern Med. 2012;51(19):2675-82	The Usefulness of Double-balloon Enteroscopy in Gastrointestinal Stromal Tumors of the Small Bowel with Obscure Gastrointestinal Bleeding.	藤原 靖弘	消化器内科
Dig Endosc. 2012 Nov;24(6):407-411.	Clinical symptoms of FSSG in gastroesophageal reflux disease are critical for PPI treatment: Japanese multi-centers with 185 patients.	藤原 靖弘	消化器内科
Intern Med. 2012;51(23):3235-9.	A Multicenter Study on the Prevalence of Eosinophilic Esophagitis and PPI-Responsive Esophageal Eosinophilic Infiltration.	藤原 靖弘	消化器内科
Dig Dis Sci. 2013 May;58(5):1198-206.	Cytoglobin may be involved in the healing process of gastric mucosal injuries in the late phase without angiogenesis.	富永 和作	消化器内科
Dig Liver Dis. 2013 May;45(5):390-5.	Risk factors for severe nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small intestinal damage.	渡辺 俊雄	消化器内科
Dig Endosc. 2013 Jan 29	Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis and intestinal metaplasia: A multicenter study of 2283 cases.	渡辺 俊雄	消化器内科
Intern Med. 2013;52(24):445-449	Precise endoscopic and pathologic features in a Crohn's Disease case with two fistula-associated small bowel adenocarcinomas complicated by anal canal adenocarcinoma.	渡辺 憲治	消化器内科
Dig Endosc. 2013 Mar;25(2):200-3	Endoscopic radial incision and cutting method for refractory esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection of superficial esophageal carcinoma.	富永 和作	消化器内科
Intern Med. In press	Clinical Classification of Subgroups According to the Rome III Criteria Cannot be Used to Distinguish the Associated Respective Pathophysiology in Japanese Patients with Functional Dyspepsia	富永 和作	消化器内科
Eur J Pharmacol. 2013 Mar 15;704(1-3):64-9.	Rebamipide inhibits indomethacin-induced small intestinal injury: Possible involvement of intestinal microbiota modulation by upregulation of $\alpha$ -defensin 5.	谷川 徹也	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Asian J Endosc Surg. 2012;5(3):118-22.	A comparative study of single-incision versus conventional multiport laparoscopic ileocecal resection for Crohn's disease with strictures.	渡辺 憲治	消化器内科
Curr Med Chem 2012;19:77-81	Small intestinal injury caused by NSAID/aspirin: Finding new from old	荒川 哲男	消化器内科
J Gastroenterol. 2012 Jul;47(7):760-9	Gastroesophageal reflux disease and sleep disturbances.	藤原 靖弘	消化器内科
World J Gastroenterol. 2012 Sep 21;18(35):4811-22.	Quality of ulcer healing in gastrointestinal tract: Its pathophysiology and clinical relevance.	荒川 哲男	消化器内科
Am J Gastroenterol. 2012 Aug;107(8):1266-8.	Complete remission of protein-losing gastroenteropathy associated with Sjögren syndrome by B cell-targeted therapy with rituximab	谷川 徹也	消化器内科
Scand J Gastroenterol. 2013 Mar;48(3):320-5.	Incidence and risk factors of gastrointestinal bleeding in patients on low-dose aspirin therapy after percutaneous coronary intervention in Japan.	渡辺 俊雄	消化器内科
日本消化器病学会雑誌 2012 Feb;109(2):217-23.	十二指腸原発sarcomatoid carcinoma (undifferentiated carcinoma, sarcomatoid type)の1例	荒川 哲男	消化器内科
日本消化器病学会雑誌(0446-6586)109巻2号 Page224-230(2012.02)	チオプリン製剤投与により急性膵炎を発症した炎症性腸疾患の2例	渡辺 憲治	消化器内科
日本医師会雑誌 141:48-49	胸やけ 生涯教育シリーズ-83 消化器疾患診療のすべて.	荒川哲男	消化器内科
日本内科学会雑誌 102;1:96-104	機能的消化管障害(FGID): 診断と治療の進歩 今後期待される薬物療法	富永 和作	消化器内科
Hepatology Research (2012年9月)	Anti-hepatitis B virus therapy: To stop, or not to stop: Has the question been solved?	河田則文	肝胆膵内科
J Gastroenterol. (2012年8月)	Entecavir and interferon- $\alpha$ sequential therapy in Japanese patients with hepatitis B e antigen-positive chronic hepatitis B.	榎本大	肝胆膵内科
Biochem Biophys Res Commun. (2012年8月)	Inhibition of the activation of hepatic stellate cells by arundic acid via the induction of cytoglobin.	河田則文	肝胆膵内科
Hepatology Research (2012年9月)	Changes in sequences of core region, interferon sensitivity-determining region and interferon and ribavirin resistance-determining region of hepatitis C virus genotype 1 during interferon-alpha and ribavirin therapy, and efficacy of retreatment.	河田則文	肝胆膵内科
Fibrogenesis Tissue Repair. (2012年5月)	Induction of microRNA-214-5p in human and rodent liver fibrosis.	河田則文	肝胆膵内科
Hepatology. (2012年4月)	Antifibrotic role of macrophage migration inhibitory factor: discovery of an unexpected function.	河田則文	肝胆膵内科
Dig Dis Sci. (2012年6月)	Effect of mosapride citrate on gastric emptying in interferon-induced gastroparesis.	河田則文	肝胆膵内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatogastroenterology. (2012年3月)	Benefits of Artificially Induced Pleural Effusion and/or Ascites for Percutaneous Radiofrequency Ablation of Hepatocellular Carcinoma Located on the Liver Surface and in the Hepatic Dome.	岩井秀司	肝胆膵内科
Hepatology Research (2012年6月)	Response-guided therapy for patients with chronic hepatitis who have high viral loads of hepatitis C virus genotype 2.	河田則文	肝胆膵内科
J Gastroenterol. (2012年3月)	Inflammation and fibrogenesis in steatohepatitis.	藤井英樹	肝胆膵内科
Gut. (2012年1月)	MicroRNA-221/222 upregulation indicates the activation of stellate cells and the progression of liver fibrosis.	榎本大	肝胆膵内科
PLoS ONE. (2012年10月)	Comprehensive miRNA expression analysis in peripheral blood can diagnose liver disease.	村上善基	肝胆膵内科
J Hum Genet. 57(3): 159-160, 2012	Commentary on the mutation spectrum of and founder effects affecting the PTS gene in East-Asian populations	新宅治夫	小児科 新生児科
Molecular Genetics and Metabolism 107 (1-2): 136-144, 2012 (2012年9月)	Current diagnosis and management of mucopolysaccharidosis VI in the Asia-Pacific region.	田中あけみ	小児科 新生児科
Molecular Genetics and Metabolism 107 (3): 513-520, 2012 (2012年11月)	Long-term efficacy of hematopoietic stem cell transplantation on brain involvement in patients with mucopolysaccharidosis type II: A nationwide survey in Japan.	田中あけみ	小児科 新生児科
British Journal of Haematology Volume 157, Issue 3, May 2012, Pages: 381-382.	Does octreotide prevent L-asparaginase-associated pancreatitis in children with acute lymphoblastic leukaemia?	時政定雄	小児科 新生児科
Vaccine. 2012;30:4160-6.	RNAi suppression of rice endogenous storage proteins enhances the production of rice-based Botulinum neurotoxin type A vaccine.	徳原大介	小児科 新生児科
膵・胆管合流異常診療ガイドライン 日本膵・胆管合流異常研究会, 日本 胆道学会編 医学図書出版 分担 執筆 67-70 (2012年5月)	胆道再建の方法は？	諸富嘉樹	小児科 新生児科
小児外科44巻9号838-841 (2012年9月)	【鼠径ヘルニアの手術:小児と成人の違い】小児(単孔式LPEC)	諸富嘉樹	小児科 新生児科
胆と膵34(3).2013 (2012年3月)	【膵・胆管合流異常診療ガイドラインを巡る残された問題点】膵・胆管合流異常の名称を巡る問題点	諸富嘉樹	小児科 新生児科
小児外科44巻9号 899-903(2012年9 月)	小児再発鼠径ヘルニア	諸富嘉樹	小児科 新生児科
Journal of Allergy and Clinical Immunology 129(4):1085-1093(2012.4月)	Modulation of basophil activity: A novel function of the neuropeptide $\alpha$ -melanocyte-stimulating hormone	菅原 弘二	皮膚科
Journal of Dermatological Science 66(1):44-50(2012.4月)	Interaction of plectin and intermediate filaments	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(4):336-338(2012.4月)	Applicability of radiocolloids, blue dyes and fluorescent indocyanine green to sentinel node biopsy in melanoma	加茂 理英	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Investigative Dermatology 132(4):1158-1168(2012.4月)	Epitope spreading is rarely found in pemphigus vulgaris by large-scale longitudinal study using desmoglein 2-based swapped molecules	鶴田 大輔	皮膚科
British Journal of Dermatology 166(5):976-980(2012.5月)	Five Japanese cases of antidesmoglein 1 antibody-positive and antidesmoglein 3 antibody-negative pemphigus with oral lesions	鶴田 大輔	皮膚科
Case Reports in Dermatology 4(2):133-138(2012.5月)	Cutaneous and laryngeal squamous cell carcinoma in mixed epidermolysis bullosa, Kindler syndrome	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Cutaneous Medicine and Surgery 16(3):194-196(2012.5-6月)	Clinical usefulness of ultrasonography in interdigital pilonidal sinus	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatological Science 66(3):244-245(2012.6月)	Eleven novel mutations of the ADARI gene in dyschromatosis symmetrica hereditaria	深井 和吉	皮膚科
Journal of Traditional Medicines 29(2):93-96 (2012.7月)	Usefulness of Kampo formulas in the treatment of atopic dermatitis	小林 裕美	皮膚科
Immunotherapy 4(7):735-774(2012.7月)	Diagnosis and treatment of pemphigus	鶴田 大輔	皮膚科
Dermatologic Therapy 25(4):379-381(2012.7-8月)	Mizoribine treatment for antihistamine-resistant chronic autoimmune urticaria	鶴田 大輔	皮膚科
Dermatologic Therapy 25(4):382-385(2012.7-8月)	Therapeutic effect of mizoribine on pemphigus vulgaris and pemphigus foliaceus	鶴田 大輔	皮膚科
European Journal of Dermatology 22(4):547-549(2012.7-8)	Decline of disease activity and autoantibodies to desmoglein 3 and envoplakin by oral prednisolone in paraneoplastic pemphigus with benign thymoma	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(8):738-739(2012.8)	Cutaneous polyarteritis nodosa induced by Mycobacterium tuberculosis	鶴田 大輔	皮膚科
Australasian Journal of Dermatology 53(3):202-206(2012.8)	Low-dose cyclosporin improves the health-related quality of life in Japanese psoriasis patients dissatisfied with topical corticosteroid monotherapy	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 51(2): 91-95(2012.9月)	Effect of the smell of Seirogan, a wood creosote, on dermal and intestinal mucosal immunity and allergic inflammation	小林 裕美	皮膚科
Contact Dermatitis 67(3):171-172(2012.9月)	Contact urticaria caused by a fish-derived elastin-containing cosmetic cream	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(9):787-789(2012.9月)	Unilateral bullous pemphigoid without erythema and eosinophil infiltration in a hemiplegic patient	鶴田 大輔	皮膚科
Pediatric Dermatology 29(5):637-640(2012.9-10月)	Erythema dyschromicum perstans in a Japanese child	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Investigative Dermatology 132(10):2332-2341(2012.10)	P-cadherin regulates human hair growth and cycling via canonical Wnt signaling and transforming growth factor- $\beta$ 2	鶴田 大輔	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical and Experimental Dermatology 37(7):749-752(2012.10月)	Partial response of angiosarcoma of the scalp to sorafenib: association with decreased expression of vascular endothelial growth factors and their receptors	田宮 久詩	皮膚科
Journal of Dermatology 39(10):862-863(2012.10月)	Multiple linear bowenoid papulosis without surrounding papules	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(11):941-943(2012.11月)	Blaschkitis-like eruptions with hypodontia and low I $\kappa$ B kinase gamma expression	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(11):902-908(2012.11月)	Comparison between famciclovir and valacyclovir for acute pain in adult Japanese immunocompetent patients with herpes zoster	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(11):960-962(2012.11月)	Atypical subacute cutaneous lupus erythematosus presenting as lichen planus pemphigoides with autoantibodies to C-terminus of BP180, desmoglein 1 and SS-A/Ro antigen	鶴田 大輔	皮膚科
Acta Dermato-Venereologica 92(6):660-661(2012.11月)	Successful treatment of Bowen's disease with topical maxacalcitol	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Cutaneous Medicine and Surgery 16(6):448-450(2012.11-12月)	Psoriasis vulgaris caused by ceramic inserts used in total hip replacement	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(12):1089-1091(2012.12月)	Atypical erosive pustular dermatosis of the scalp with eosinophilia and erythroderma	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 39(12):1022-1025(2012.12月)	Pediatric case report : clinical profile of a patient with PCWH with p.Q377X nonsense mutation in the SOX10 gene	深井 和吉	皮膚科
Journal of Dermatology 39(12): 1002-1005(2012.12月)	Two Japanese cases of dermatitis herpetiformis associated each with lung cancer and autoimmune pancreatitis but showing no intestinal symptom or circulating immunoglobulin A antibodies to any known antigens	鶴田 大輔	皮膚科
Experimental Dermatology 21(12):911-914(2012.12月)	Intercellular pathway through hyaluronic acid in UVB-induced inflammation	小林 裕美	皮膚科
Journal of Dermatology 39(12):1057-1058(2012.12月)	Case of Kindler syndrome resulting from mutation in the FERMT1 gene	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 52(1):58-63(2013.1月)	Mild exercise suppresses exacerbation of dermatitis by increasing cleavage of the $\beta$ -endorphin from proopiomelanocortin in NC/Nga mice	鶴田 大輔	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 38(1):71-76(2013.1月)	Ultraviolet B irradiation of the mouse eye induces pigmentation of the skin more strongly than does stress loading, by increasing the levels of prohormone convertase 2 and $\alpha$ -melanocyte-stimulating hormone	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 52(1):17-21(2013.1月)	Inducible nitric oxide synthase plays important roles in allergic reactions of pollinosis in mice sensitized with pollen allergy	小林 裕美	皮膚科
Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 27(1):e17-e23(2013.1月)	Efficacy and safety of rituximab treatment in Indian pemphigus patients	鶴田 大輔	皮膚科
Indian Journal of Dermatology, Venereology and Leprology 79(1):70-76(2013.1-2月)	Assessment of the therapeutic benefit of dexamethasone cyclophosphamide pulse versus only oral cyclophosphamide in phase II of the dexamethasone cyclophosphamide pulse therapy: A preliminary prospective randomized controlled study	鶴田 大輔	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Contact Lens & Anterior Eye 36(1):28-31(2013.2月)	UVB-induced epidermal pigmentation in mice eyes with no contact lens wear and non-UVB blocking and UVB blocking contact lens wear	小林 裕美	皮膚科
European Journal of Dermatology 23(1):87-93(2013.2)	Nodular morphea (NM): report of a case of concurrent NM and morphea profunda associated with limited type systemic sclerosis, and overview and definition for NM	鶴田 大輔	皮膚科
European Journal of Dermatology 23(1):107-109(2013.2月)	Linear IgA bullous dermatosis with a prurigo nodularis-like appearance	鶴田 大輔	皮膚科
Experimental Dermatology 22(2):83-87(2013.2月)	How do keratinizing disorders and blistering disorders overlap?	鶴田 大輔	皮膚科
European Journal of Dermatology 23(1):117(2013.2月)	Overlap syndrome comprised of systemic sclerosis and systemic lupus erythematosus associated with spinocerebellar ataxia type 6 and MALT lymphoma	鶴田 大輔	皮膚科
American Journal of Pathology 182(3):828-840(2013.3月)	Bullous Pemphigoid IgG Induces BP180 Internalization via a Macropinocytic Pathway	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 40(3):201-206(2013.3月)	Protective effect of hochuekkito, a Kampo prescription, against ultraviolet B irradiation-induced skin damage in hairless mice	鶴田 大輔	皮膚科
Expert Opinion on Therapeutic Targets 17(3):293-306(2013.3月)	Desmoglein 3, its pathogenicity and a possibility for therapeutic target in pemphigus vulgaris	鶴田 大輔	皮膚科
The British Journal of Radiology. 85(1012)331-338 (2012年4月)	Experimental venous thrombi: MRI characteristics with histopathological correlation.	三木幸雄	放射線科
Japanese Journal of Radiology. 31(2)133-137 (2013年1月)	Imaging appearance of petrous apex dermoid cysts containing little or no fat.	三木幸雄	放射線科
The Scientific World Journal 2013 289809 (2013年1月)	Delivery parameter variations and early clinical outcomes of volumetric modulated arc therapy for 31 prostate cancer patients: an intercomparison of three treatment planning systems.	堤真一	放射線治療科
Journal of Radiation Research. Epub ahead of print (2013年2月)	A dose-volume intercomparison of volumetric-modulated arc therapy, 3D static conformal, and rotational conformal techniques for portal vein tumor thrombus in hepatocellular carcinoma.	細野雅子	放射線治療科
Cancer Science 103: 228-232, 2012	Plasminogen activator inhibitor 1 RNA interference suppresses gastric cancer metastasis in vivo	平川弘聖	腫瘍外科 (第1外科)
Surgery Today 42: 185-190, 2012	Successful surgical treatment of advanced follicular thyroid carcinoma with tumor thrombus infiltrating the superior vena cava	小野田尚佳	腫瘍外科 (第1外科)
British Journal of Cancer 106: 1535-1542, 2012	PI3K/Akt signalling is required for the attachment and spreading, and growth in vivo of metastatic scirrhous gastric carcinoma	平川弘聖	腫瘍外科 (第1外科)
Oncology Reports 28: 49-54, 2012	Concurrent biological targeting therapy of squamous cell carcinoma of the esophagus with cetuximab and trastuzumab	平川弘聖	腫瘍外科 (第1外科)
Experimental and Therapeutic Medicine 3: 925-930, 2012	Correlation between efficacy of PSK postoperative adjuvant immunochemotherapy for gastric cancer and expression of MHC class I	田中浩明	腫瘍外科 (第1外科)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Experimental and Therapeutic Medicine 3: 963-968, 2012	Parathyroid hormone-related protein expression, in combination with nodal status, predicts bone metastasis and prognosis of breast cancer patients	高島 勉	腫瘍外科 (第1外科)
British Journal of Cancer 106: 1668-1674, 2012	Expression of forkhead box P3 in tumour cells causes immunoregulatory function of signet ring cell carcinoma of the stomach	田中浩明	腫瘍外科 (第1外科)
Surgery Today 43: 178-184, 2013	Pattern of initial metastasis in the cervical lymph node from papillary thyroid carcinoma	小野田尚佳	腫瘍外科 (第1外科)
Asian Journal of Endoscopic Surgery 5: 118-122, 2012	A comparative study of single-incision versus conventional multiport laparoscopic ileocecal resection for Crohn's disease with strictures	前田 清	腫瘍外科 (第1外科)
Journal of Gastrointestinal Surgery 16: 1929-1939, 2012	Meta-analysis of the results of randomized controlled trials that compared laparoscopic and open surgery for acute appendicitis	大谷 博	腫瘍外科 (第1外科)
Anticancer Research 32: 3421-3426, 2012	Association of location of lymph node metastases with postoperative recurrence of esophageal squamous cell carcinoma	田中浩明	腫瘍外科 (第1外科)
Anticancer Research 32: 3427-3433, 2012	Impact of adjuvant immunochemotherapy using protein-bound polysaccharide-K on overall survival of patients with gastric cancer	田中浩明	腫瘍外科 (第1外科)
Oncology Letters 4: 612-616, 2012	Efficacy and feasibility of neoadjuvant chemotherapy with FEC 100 followed by weekly paclitaxel for operable breast cancer	川尻成美	腫瘍外科 (第1外科)
PLoS One (Online 9 pages), 2012	CD133 is a useful surrogate marker for predicting chemosensitivity to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer	柏木伸一郎	腫瘍外科 (第1外科)
日本臨床外科学会雑誌 73(8): 1855-1860, 2012	乳癌組織生検における捺印細胞診の有用性	柏木伸一郎	腫瘍外科 (第1外科)
Annals of Surgical Oncology 19: 2733-2743, 2012	VEGF-A/VEGFR-2 signaling plays an important role for the motility of pancreas cancer cells	八代正和	腫瘍外科 (第1外科)
Cancer Science 103: 797-805, 2012	Cancer-associated orthotopic myofibroblasts stimulates the motility of gastric carcinoma cells	八代正和	腫瘍外科 (第1外科)
Journal of Cancer Therapy 3, 810-813, 2012	Breast conserving surgery and sentinel lymph node biopsy under local anesthesia for breast cancer	柏木伸一郎	腫瘍外科 (第1外科)
International Journal of Clinical Oncology 17(3):250-255 (2012年6月)	Preoperative serum oxidative stress marker as a strong indicator of nodal involvement in clinical stage I lung adenocarcinoma	西山典利	呼吸器外科 (第2外科)
Journal of Surgical Oncology 105:818-824 (2012年6月)	Preoperative Serum Value of Sialyl Lewis X Predicts Pathological Nodal Extension and Survival in Patients with Surgically Treated Small Cell Lung Cancer	西山典利	呼吸器外科 (第2外科)
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 18(3): 243-246 (2012年6月)	Lobectomy for Indeterminate Lung Tumors with a Strong Suspicion of Lung Cancer	西山典利	呼吸器外科 (第2外科)
Osaka City Medical Journal 58(1), 13-24 (2012年6月)	AGR2 as a potential biomarker of human lung adenocarcinoma	西山典利	呼吸器外科 (第2外科)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
In Tech: Current Concepts in General Thoracic Surgery, Lucio C agini ed, chapter 2, pp.15-24 (2012年12月)	Primary Lung Cancer Coexisting with Lung Metastases from Various Malignancies	西山典利	呼吸器外科 (第2外科)
気管支学 35(1), 56-59 (2013年1月)	気管支断端瘻に対してcyanoacrylateを用いた気管支鏡下閉鎖術が走行した1例	泉 信博	呼吸器外科 (第2外科)
外科 74(4)382-387 (2012年4月)	外科救急—実際の手順を追う II.肝・胆・膵 1.肝細胞癌破裂	久保正二	肝胆膵外科 (第2外科)
消化器外科 35(5)698-701 (2012年4月)	術前・術後管理必携 転移性肝癌に対する肝切除術	久保正二	肝胆膵外科 (第2外科)
日本外科感染症学会雑誌 9(3)211-217 (2012年9月)	肝切除術における予防的抗菌薬投与と手術部位感染の実態	久保正二	肝胆膵外科 (第2外科)
OPE NURSING 消化器外科 開腹術・内視鏡手術完全マニュアル 秋季増刊 213-222 (2012年9月)	1.開腹術 3.胆嚢癌手術	坂田親治	肝胆膵外科 (第2外科)
周術期感染管理テキスト 書籍 119-123 (2012年11月)	各種予防策 8 手術操作	久保正二	肝胆膵外科 (第2外科)
Journal of Microwave Surgery 30 159-162 (2012年10月)	Effects of microwave tissue coagulation on postoperative complications in patients who underwent liver resection	久保正二	肝胆膵外科 (第2外科)
手術66(4)387-391 (2012年4月)	胸腔鏡下食道癌根治術に欠かせないこだわりのデバイス:気管圧排鉤、大杉シザーズ、DeBakey型鑷子	大杉治司	肝胆膵外科 (第2外科)
手術66(6)655-658 (2012年6月)	食道癌根治術における中・下縦隔郭清-左側臥位アプローチ	大杉治司	肝胆膵外科 (第2外科)
コンセンサス癌治療11(2)87-91 (2012年6月)	食道癌の外科治療 (2)胸部食道癌の標準術式(内視鏡下手術)	大杉治司	肝胆膵外科 (第2外科)
外科74(12)1261-1265	胸部食道癌手術に必要な局所解剖	大杉治司	肝胆膵外科 (第2外科)
手術67(1)97-104 (2013年1月)	食道癌に対する微細解剖層に沿った胸腔鏡下縦隔郭清手技	大杉治司	肝胆膵外科 (第2外科)
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 60(6):386-390 (2012年6月)	Very-low-dose continuous drip infusion of landiolol hydrochloride for postoperative atrial tachyarrhythmia in patients with poor left ventricular function	末廣 茂文	心臓血管外科 (第2外科)
International Heart Journal 53(6): 359-363 (2012年11月)	Efficacy of Landiolol Hydrochloride for Prevention of Atrial Fibrillation After Heart Valve Surgery	佐々木 康之	心臓血管外科 (第2外科)
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 60(12):822-826 (2012年12月)	Mitral bioprosthetic valve stenosis in a patient with antiphospholipid antibody syndrome and systemic lupus erythematosus	平居 秀和	心臓血管外科 (第2外科)
Journal of Clinical Neuroscience 19(12)1673-1678 (2012年12月)	Outcomes of contemporary use of rectangular titanium stand-alone cages in anterior cervical discectomy and fusion : Cage subsidence and cervical alignment	山縣徹	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ビジュアル脳神経外科 Anatomy&Surgical Approach 6 174-185 (2013年2月22日)	傍鞍部髄膜腫に対する手術アプローチの選択	後藤剛夫	脳神経外科
臨床神経生理学 40(4)195-202 (2012年8月)	脳磁図の臨床応用に関する文献レビュー(第2報):虚血性脳血管障害	露口尚弘	脳神経外科
Spine 37(24) (2012年11月)	Direct Surgery for Spinal Arteriovenous Fistulas of the Filum Terminale with Intraoperative Image Guidance.	高見俊宏	脳神経外科
脊髄手術 NS NOW18 脳神経外科 手術のトラブルシューティング 156-170 (2012年3月)	III術式別のトラブルシューティング	高見俊宏	脳神経外科
Journal of Spine Research 3(7)984-989 (2012年7月)	ボックス型チタンケージによる頸椎前方圧固定術:ケージ沈み込み現象	山縣徹	脳神経外科
脊椎脊髄外科 サージカル・テクニック 164-177 (2012年8月)	III頭蓋頸椎後方手術 C1-2固定	高見俊宏	脳神経外科
Hip Joint 38 166-170 (2012年8月)	寛骨臼回転骨切り術の三次元術前計画とナビゲーションへの応用	池淵 充彦	整形外科
肩関節 36 653-656 (2012年8月)	広範囲腱板断裂に対する鏡視下手術治療成績-術式別比較を中心に-	伊藤 陽一	整形外科
末梢神経 23 334-335 (2012年12月)	手根管症候群重症例における術中電気生理学的検査を用いた神経上膜切離の効果の検討(第一報)	岡田 充弘	整形外科
末梢神経 23 55-62 (2012年)	末梢神経再生へのiPS細胞の応用 iPS細胞ハイブリッド型人工神経はマウスの末梢神経再生を促進する	上村 卓也	整形外科
臨床バイオメカニクス 33 433-438 (2012年10月)	Wearable加速度計を用いた三次元的な歩行時重心動揺評価	池淵 充彦	整形外科
JOSKAS 37 292 (2012年3月)	術前CTによる骨孔評価が有効であったACL再建術の3例	橋本 祐介	整形外科
臨床整形外科 47 539-544 (2012年6月)	難治性良性腫瘍の治療 単純性/単発性骨嚢腫の治療	星 学	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル 25(7) 679-686 (2012年7月)	生体活性リン酸カルシウムセメントによる椎体形成の中・長期成績	豊田 宏光	整形外科
Monthly Book Orthopaedics 25(5) 131-140 (2012年5月)	知っておきたい最新骨粗鬆症診療マニュアル 19.治療;保存療法	豊田 宏光	整形外科
臨床雑誌整形外科 63(11) 1189-1196 (2012年10月)	骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略	豊田 宏光	整形外科
骨折 34(3) 528-531 (2012年9月)	神経障害を合併した骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対する内視鏡下椎体形成術の治療成績	鈴木 亨暢	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Modern Physician 32(11) 1405-1406 (2012年11月)	私の処方 腰部脊柱管狭窄症による腰痛・下肢痛	鈴木 亨暢	整形外科
整形外科看護 17(10) 986-992 (2012年10月)	脊椎圧迫骨折の手術療法	寺井 秀富	整形外科
International Urology and Nephrology 44(5) (2012年10月)	ABO-incompatible kidney transplantation in elderly patients over 60 years of age.	内田潤次	泌尿器科
Experimental and Therapeutic Medicine 4(1) (2012年7月)	Albuminuria-reducing effect of angiotensin II receptor blocker plus hydrochlorothiazide combination therapy in renal transplant recipients.	長沼俊秀	泌尿器科
Nephrology (Carlton) 17(6) (2012年8月)	Factors associated with cerebral white matter hyperintensities in haemodialysis patients	長沼俊秀	泌尿器科
Experimental and Therapeutic Medicine 4(6) (2012年12月)	Chronic kidney disease in patients with ileal conduit urinary diversion.	長沼俊秀	泌尿器科
Blood Purification 35(Suppl1) (2013年2月)	The economic issue of on-line hemodiafiltration within the Japanese medical reimbursement system.	武本佳昭	泌尿器科
Fertility and Sterility 98(2):440-443 2012 Aug	Prediction of the shrinking rate of uterine leiomyoma nodules using needle biopsy specimens.	市村 友季	女性診療科
FEBS Letter 586(13):1824-831 2012 Jun 21	Potential role of LMP2 as an anti-oncogenic factor in human uterine leiomyosarcoma: morphological significance of calponin h1	市村 友季	女性診療科
Oncology Reports 28(4):1200-1204 2012 Oct	Expression of the mitotic-arrest deficiency 2 is associated with chemotherapy resistance in ovarian serous adenocarcinoma.	角 俊幸	女性診療科
European journal of Gynaecological Oncology 33(2):252-254 2012	Chemotherapy-related hypersensitivity reaction in Japanese patients with gynecologic malignancy.	橋口 裕紀	女性診療科
International journal of Gynaecology and Obstetrics 119(2):277-280 2012.Dec	Outcomes of traditional prolapse surgery for pelvic organ prolapse repair at a single center.	福田 武史	女性診療科
Oncology Letter 5(1):35-38 2013Jan	Pegylated liposomal doxorubicin for platinum-resistant or refractory Mullerian carcinoma (epithelial ovarian carcinoma, primary carcinoma of Fallopian tube and peritoneal carcinoma) : A single-institutional experience.	福田 武史	女性診療科
Journal of Cancer Therapeutics & Research 1(31) 2013	Estrogen response element enhances adenovirus-mediated transfer of the p53 gene according to codon 72 polymorphisms and cellular estrogen receptor expression	角 俊幸	女性診療科
Prenatal Diagnosis 32(8) 803-809 2012 Aug	Reference ranges for time-related analysis of ductus venosus flow velocity waveforms in singleton pregnancies.	橘 大介	女性診療科
International Ophthalmology (2012 年04月)	A case of persistent hypotony following 23-gauge vitrectomy	安宅伸介	眼科
臨床眼科 (2012年08月)	ポリープ状脈絡膜血管症の低照射エネルギー光線力学的療法9か月後に漿液性網膜剥離再発と脈絡膜菲薄化が生じた1例	趙 晃国	眼科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科(2012年08月)	片眼性網膜色素変性が疑われた症例の健眼の光干渉断層計所見	上野洋祐	眼科
Anesthesia and Resuscitation 49(1):37-39, 2013 (2013年3月)	Congestive heart failure after cesarean section in a patient with congenital myopathy.	池永 十健	麻酔科
麻酔 62(3):365, 2013 (2013年3月)	高カリウム血症が術後心停止の原因ではなかったか?	仲村 光世	麻酔科
麻酔 61(Supp):S30-S40, 2012 (2012年11月)	下行性ノルアドレナリン痛覚抑制機構とその活動制御	西川 精宣	麻酔科
Clinical Pediatric Anesthesia 18(1):162-165, 2012 (2012年8月)	Anesthetic consideration of 80 pediatric cases for tracheostomy.	萩原 千恵	麻酔科
NeuroReport 23(10):601-605, 2012 (2012年7月)	Effects of general anesthesia on P2X4 receptors in a mouse microglial cell line.	森 隆	麻酔科
Journal of Anesthesia 27, 2013 (2013年3月 online first 5月時点未掲載)	Effect of lipid emulsion on the central nervous system and cardiac toxicity of bupivacaine and levobupivacaine in awake rats.	池田 優子	麻酔科
形成外科 2012;55巻増刊: S120-S123. (2012年9月)	皮弁の理論と実際. 局所皮弁. Z形成術とW形成術.	原田輝一	形成外科
Acta Otolaryngol (Stockh). 2012;132(8):887-92. (2012年8月)	Simple maxillary reconstruction following total maxillectomy using artificial bone wrapped with vascularized tissue: five key points to ensure success.	元村尚嗣	形成外科
創傷 2012;3(2):58-63. (2012年4月)	【単純縫宿vs局所皮弁・Z形成術】顔面皮膚腫瘍切除後欠損における oblique sigmoid皮下茎皮弁(OSS flap)の有用性.	元村尚嗣	形成外科
Skin Cancer 2012;27(1):78-82. (2012年5月)	ICG蛍光ガイド下に鼠径リンパ節郭清を施行した3症例.	元村尚嗣	形成外科
日本形成外科学会誌 2012;32(4):223-231. (2012年4月)	当科における頭頸部皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検.	元村尚嗣	形成外科
日本形成外科学会誌 2012;32(4):217-222. (2012年4月)	大阪市立大学形成外科における外傷性刺青123例の統計.	小澤 俊幸	形成外科
日本形成外科学会誌 2012;32(11):835-840. (2012年11月)	後頸部spindle cell lipomaの2例.	小澤俊幸	形成外科
形成外科 2012;55(8):911-916. (2012年8月)	Steatocystoma multiplexの7例.	小澤俊幸	形成外科
Acta Haematologica 130(2):111-114 (2013年3月)	Dasatinib Maintenance Therapy after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for an Isolated Central Nervous System Blast Crisis in Chronic Myelogenous Leukemia.	中前博久	血液内科・造血細胞移植科
Acta Haematologica 130(2):83-86 (2013年3月)	Use of per Rectal Portal Scintigraphy to Detect Portal Hypertension in Sinusoidal Obstructive Syndrome following Unrelated Cord Blood Transplantation.	中前博久	血液内科・造血細胞移植科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
Journal of Infection and Chemotherapy 19:103-111 (2013年2月)	Prospective randomized study of cefepime, panipenem, or meropenem monotherapy for patients with hematological disorders and febrile neutropenia.	日野雅之	血液内科・造血細胞移植科
Transplant Infectious Disease 14(6):E142-146 (2012年12月)	Fatal BK virus pneumonia following stem cell transplantation.	寺田芳樹	血液内科・造血細胞移植科
European Journal of Medical Chemotherapy 57:143-148 (2012年11月)	Intravenous injection of hybrid liposomes suppresses the liver metastases in xenograft mouse models of colorectal cancer in vivo.	中前博久	血液内科・造血細胞移植科
Internal Medicine 51(10):1265-1267 (2012年10月)	Prolonged sinus tachycardia caused by human herpesvirus 6 (HHV6) encephalomyelitis after allogeneic bone marrow transplantation.	中前博久	血液内科・造血細胞移植科
Internal Medicine 51(8):851-858 (2012年8月)	Eosinophilia, regardless of degree, is related to better outcomes after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	中根孝彦	血液内科・造血細胞移植科
Leukemia Lymphoma 53(6):1084-1089 (2012年6月)	Different immunoprofiles in patients with chronic myeloid leukemia treated with imatinib, nilotinib or dasatinib.	中前博久	血液内科・造血細胞移植科
J Nucl Med 53:741-748 (2012年5月)	PET imaging based evaluation of hepatobiliary transport in humans with (15R)-C-11-TIC-Me	塩見 進	核医学科
Jpn J Radiol 6:463-470 (2012年7月)	The role of FDG PET-CT in the therapeutic evaluation for HNSCC patients	河邊讓治	核医学科
Dig Dis Sci 57:1510-1516 (2012年6月)	Effect of mosapride citrate on gastric emptying in interferon-induced gastroparesis	塩見 進	核医学科
Dement Geriatr Cogn Disord 34:112-120 (2012年9月)	Clinical features of Pittsburgh compound-B-negative dementia	河邊讓治	核医学科
J Gastroenterol:397-404 (2013年3月)	Entecavir and interferon- $\alpha$ sequential therapy in Japanese patients with hepatitis B e antigen-positive chronic hepatitis B	塩見 進	核医学科
Acta haematologica 130(2):111-114(2013年3月)	Dasatinib Maintenance Therapy after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for an Isolated Central Nervous System Blast Crisis in Chronic Myelogenous Leukemia	大澤 政彦	病理部
European radiology 23(2):551-61 (2013年2月)	Post-embolisation susceptibility changes in giant meningiomas: multiparametric histogram analysis using non-contrast-enhanced susceptibility-weighted PRESTO, diffusion-weighted and perfusion-weighted imaging	大澤 政彦	病理部
Internal medicine 51(19):2675-82 (2012年10月)	The usefulness of double-balloon enteroscopy in gastrointestinal stromal tumors of the small bowel with obscure gastrointestinal bleeding	大澤 政彦	病理部
Pancreatolgy 12(3):215-8 (2012年5-6月)	Spontaneously complete regression of pseudolymphoma of the remnant pancreas after pancreaticoduodenectomy	大澤 政彦	病理部
Internal medicine 51(8):851-8 (2012年8月)	Eosinophilia, regardless of degree, is related to better outcomes after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	大澤 政彦	病理部
救急医学 第36巻第6号page657-662	チーム医療教育	溝端康光	救命救急センター救急生体管理医学

小計 17

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 254

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 石河 修
管理担当者氏名	事務部長兼庶務課長 川上 悟、医事運営課長 熊田 文男、情報システム課長 柚原 功 看護部長 高松 智恵子、薬剤部長 永山 勝也、臨床工学部主査 松尾 光則

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録  病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 看護部 薬剤部 情報システム課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院日誌→庶務課</li> <li>・各科診療日誌→看護部</li> <li>・処方せん→薬剤部</li> <li>・手術記録→看護部（OPE室）</li> <li>・看護記録→情報システム課（電カル）</li> <li>・検査所見記録→情報システム課（電カル）</li> <li>・エックス線写真→情報システム課（電カル）</li> <li>・紹介状→情報システム課（電カル）</li> <li>・退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書→情報システム課（電カル）</li> </ul>	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課		
	高度の医療の実績	医事運営課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課		
	高度の医療の研修の実績	庶務課		
	閲覧実績			
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬剤部		
	に規則 掲げる 第一 条制の 十一 確保の 第一 項各 号及び 第九 条の 二十三 第一 項第一 号	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		庶務課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		庶務課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		庶務課		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		庶務課		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		庶務課		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		庶務課		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		庶務課		

## (様式第12)

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理 及び運営 に関する 諸記録	規則第一条の十一 第一項各号及び第九 条の二十三第一項 第一号に掲げる体 制の確保の状況	院内感染対策のための 指針の策定状況	庶務課
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	庶務課
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の実 施状況	庶務課
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対策 の推進を目的とした改善 のための方策の実施状況	庶務課
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任者 の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品 の安全使用のための研修 の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順書 の作成及び当該手順書に 基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の取 集その他の医薬品の安全 使用を目的とした改善の ための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用の ための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機 器の安全使用のための研 修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び保 守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器の 安全使用を目的とした改 善のための方策の実施状 況	臨床工学部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 石河 修
閲覧担当者氏名	事務部長兼庶務課長 川上 悟、情報システム課長 柚原 功
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	86.5 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	23,083人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,689人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	655人	
	D: 初診の患者の数	30,687人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>平成16年12月に改正した「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めている。また、「大阪市立大学医学部附属病院安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○組織及び体制</li> <li>○院内報告制度</li> <li>○医療安全管理に関する教育・研修</li> <li>○医療事故発生時の対応</li> <li>○事故の公表</li> <li>○医療事故の調査と事故防止対策</li> <li>○医療安全相談窓口</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○院内の医療安全管理および感染対策の検討及び推進に関すること</li> <li>○医療安全管理および感染対策の情報に関すること</li> <li>○医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること</li> <li>○院内感染多発時の調査及び改善策の検討に関すること</li> <li>○その他、医療安全管理に関すること</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 26 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員を対象とした講演会等の実施（2回）</li> <li>○部署別事例研修の開催（4回）</li> <li>○新規採用の医師、看護師及び研修医に対し、医療安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催（12回）</li> <li>○医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催（5回）</li> <li>○厚生労働省推薦教材DVD研修（2回）</li> <li>○全従業者を対象としたAED講習会の開催（1回）</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。報告されたレポートについては、定期的リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あてに詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p> <p>また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p>	

## (様式第13-2)

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) ( 5 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) ( 8 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任( 13 )名 兼任( 8 )名</li> </ul> <p>医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を部長・統括安全管理者とする医療安全管理部を設け、専任医師1名、専任安全管理者2名(看護師、薬剤師各1名)を中心として、各部署より選出されたリスクマネージャー83名並びに部長を補佐する部長代理2名、顧問5名を配置している。また感染制御部には、専任の感染管理者6名(看護師2名、医師2名、薬剤師1名、臨床検査技師1名)を配置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的に行い、医療安全管理の推進を図る。</li> <li>○医療安全管理・感染対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全・感染に関する意識の高揚を図る。</li> <li>○医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的なリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。</li> <li>○様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。</li> <li>○院内の感染に関する予防と処置を行う。</li> <li>○院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図り、実施後、検証し見直しを行う。</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応	(有) ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：           <p>「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症の分類等</li> <li>・ 組織及び体制</li> <li>・ 感染対策に関する教育・研修</li> <li>・ 感染発生の報告</li> <li>・ 感染発生時の対応</li> <li>・ 感染の調査とその対策</li> <li>・ 指針の閲覧</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること</li> <li>・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正</li> <li>・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証し見直しを行う。</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規採用者に対する研修</li> <li>・ 全教職員を対象とした講演会の実施</li> <li>・ 医師、看護師、医療技術職員等、外来ボランティア、ナースエイド、清掃・洗濯委託業者を対象とした研修</li> <li>・ 感染対策マネージャー研修</li> <li>・ DVD研修</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	有 ・ 無 )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所（大阪府知事・大阪市長）及び医療安全協議会長宛届出用紙を提出する。</li> <li>・ 専任感染管理者は必要な部門（病院長、医療安全協議会など）へ報告する。</li> <li>・ 医療安全協議会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。</li> <li>・ 感染情報の解析と管理</li> <li>・ 院内感染症のサーベイランス</li> <li>・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計</li> <li>・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告</li> <li>・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導</li> <li>・ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導</li> <li>・ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発</li> <li>・ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂</li> <li>・ 職業感染防止対策の実施</li> <li>・ ファシリティーマネジメント（施設管理）への関与</li> </ul> </li> </ul>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①新規採用者研修（医師、看護師、医療技術職員など対象：H24年度 12回実施）      医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催</p> <p>②静脈注射研修（看護師対象 H24年度 1回実施）      静脈注射を実施するにあたり必要な知識・技術に関する研修会</p> <p>③麻薬の安全管理研修（全教職員対象 H24年度 2回実施 病棟対象 H24年度 2回実施）      麻薬の安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催</p> <p>④臨床研修医、卒後研修（H24年度 年1回実施）      医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な処方の注意点について研修会を開催</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 ・ 無 )</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>①内用・外用薬処方の方法、取扱い      ②注射薬の取扱い      ③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生 物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など）      ④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）      ⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）      ⑥服薬指導・与薬      定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。（病棟：月1回、診療科：年4回実施）</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品の安全性に関わる情報については、文書配布、電子カルテに掲載、各診療科の薬事委員にメール配信している。該当薬品の処方医を抽出し、診療科ごとに処方医師一覧表を作成し配布し、内容を確認後サインして薬剤部に返却することとしている。</p> <p>その他</p> <p>①類似名称による間違い防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスリー錠とマイスタン錠について、薬剤選択画面のマイスリー錠の文字は色を変えて、先頭に「催眠」の文字を入れて注意喚起した。</li> <li>・ノボ・ヘパリンとノボリンRについて、院内取扱い薬品をノボリンRからヒューマリンRに変更した。</li> </ul> <p>②硬膜外から投与する注射薬をオーダー時に「硬膜外注射」の用法がなく、コメント入力をしていたため、投与ルートに「硬膜外注射」を追加した。</p> <p>※薬剤師が専任安全管理者として医療安全管理部に配置されており、医薬品に関わるインシデント報告の中で特に重要性の高い内容を薬剤部と専任安全管理者で協議し、事故防止のための対策を検討している。</p>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 196 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器・血液浄化装置・手動式人工蘇生器・酸素療法器具について、安全使用のための合同研修会を開催した。また、人工心肺装置・補助循環装置・除細動装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・生体情報モニター・シリンジポンプ・輸液ポンプ等の医療機器について、部署別研修会を実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・手動式人工蘇生器・その他(10品目以上)の医療機器について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、医療機器安全性情報及び院内Web等での情報配信を行った。</li> <li>2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供した。</li> <li>3. 院内で発生した医療機器に関するインシデント報告について、医療安全管理部から情報を受け、再発防止のための対応策について関連部署を含め協議した。また、院内に周知すべき重要性の高い内容については、医療機器安全使用研修会等を開催し、院内周知に努めた。</li> <li>4. MEセンターで中央管理されている汎用性の高い医療機器については、更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新と機種統一化を進めた。</li> <li>5. 新規に購入された医療機器の添付文書をMEセンターで保管し、各部署に情報提供した。</li> </ol>	